

3・13 全国統一行動

札幌で「つながる春闘集会」

3月13日の全国統一行動で、札幌では昼休みに札幌駅前での宣伝行動をおこない、夜には「つながる春闘集会」で春闘での要求前進にむけてたたかいを交流しました。昼の宣伝では建交労道本部の宮澤書記長が、北海道鉄道本部や札幌学童保育支部の仲間が職場でのたたかいとあわせて制度・政策要求で国や自治体などへ強く働きかけてきたことなどについて発言しました。

北海道鉄道本部は札幌で集中行動

この日、北海道鉄道本部は札幌での集中行動に取り組みました。各支部の組合員15人が午前中から準備をすすめ、白石区でポケットティッシュに建交労の春闘リーフレットを入れてポストイングしたあと、札幌駅前で札幌地区労連と合同の昼休み宣伝行動を実施して、夜の集会にも札幌近郊の組合員が参加しました。

JR北海道との団体交渉経過 北海道鉄道本部

北海道鉄道本部は2月12日に提出した2025年春闘要求書にもとづきJR北海道との団体交渉を重ねています。(第3回以降については続報)

2月27日の第1回の交渉では会社から概況説明がおこなわれました。経済動向について「国内は緩やかな回復傾向にあり、道内においても一部弱い面があるが緩やかな回復傾向にある。第3四半期発表で運輸収入は回復している」との説明とともに、砂川駅構内での安全の根幹にかかわる事象が発生している問題が報告されました。建交労から「依然として続く物価高騰は、会社として営業費用の増加もあるが、社員の暮らしにも大きく影響を及ぼしている。賃金引上げによる社員・家族の生活安定の効果は計り知れない」と最低賃金の引上げも視野に入れたベアの実施を強く求めました。そして「度重なる安全軽視の行動に運輸局から監査も受けているが、このことを理由にしたベア凍結などは社員を一層疲弊させ、負の連鎖につながってしまう」ことを述べ、今後の会社回答が前向きなものとなることを期待して、この日の交渉を終えました。

3月4日には2回目の交渉がおこなわれ、職場環境問題について回答がありました。回答を前に建交労から、工務職場で発生した一連の事象で社長会見をもとにしたと思われるマスコミ報道について意見を述べました。「切り取られた言葉が使われることもあるが、若手社員の安全教育についての社長発言は、工務職場が若手社員の奮闘で支えられて安全が守られていることを忘れたかのように受け取れた。日ごろの頑張りが認められていないと若手社員のモチベーションを低下させ、若年退職に歯止めをかけたい会社の思いに反することだと思う」として、正確な社長の思いや考え方を受け止めるために社長会見時に条件付きで入室できるよう会社に検討を求めました。回答では会社が要求を真摯に受け止めて改善された点もありました。退職旅行について「社員への周知・説明用にリーフレットを作成し現場から好評を得ている」という回答がありましたが、使用期間について一層の議論が必要です。福利厚生充実がこれからの会社にとって人材確保という貴重な財産につながることを引き続き意見交換を進めます。また、社長は「要員が足りている」といっており、担当者は「北海道新幹線の札幌延伸時には厳しくなる」といいますが、公共交通を維持継続するうえで一番必要な労働力の確保、技術の継承をどの時点に焦点を当てて考えているのかを今後の交渉で明らかにしていきます。また、エルダー社員の活用について同一労働同一待遇の視点から改善すべき課題があり、今後の交渉で前進回答をめざします。